



Nissan Chemical
CORPORATION

未来のための、はじめてをつくる。

個人投資家の皆様へ 日産化学（株）（証券コード:4021） 会社説明会資料

説明者 日産化学（株）
サステナビリティ・IR部
IRグループリーダー
上出 未来

2026年8月28日



Contents

01	沿革・会社概要	P3
02	機能性材料セグメント概況	P6
03	農業化学品セグメント概況	P14
04	ESGトピックス	P24
05	参考資料	P28

1887

東京人造肥料会社設立

1937

日産化学工業株式会社に改称

1965

石油化学事業へ進出

1988

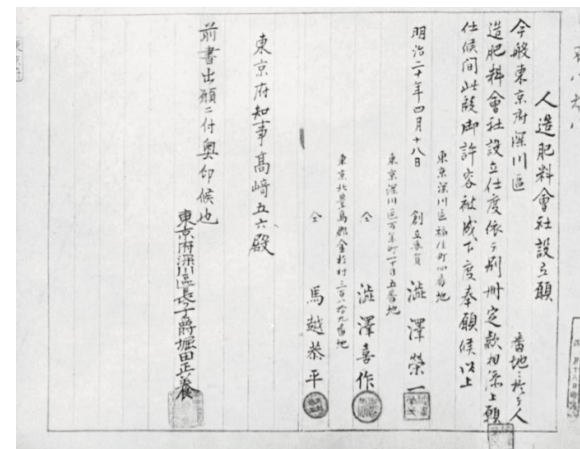
石油化学事業から撤退

1989

事業構造の転換

2018

日産化学株式会社に名称を変更



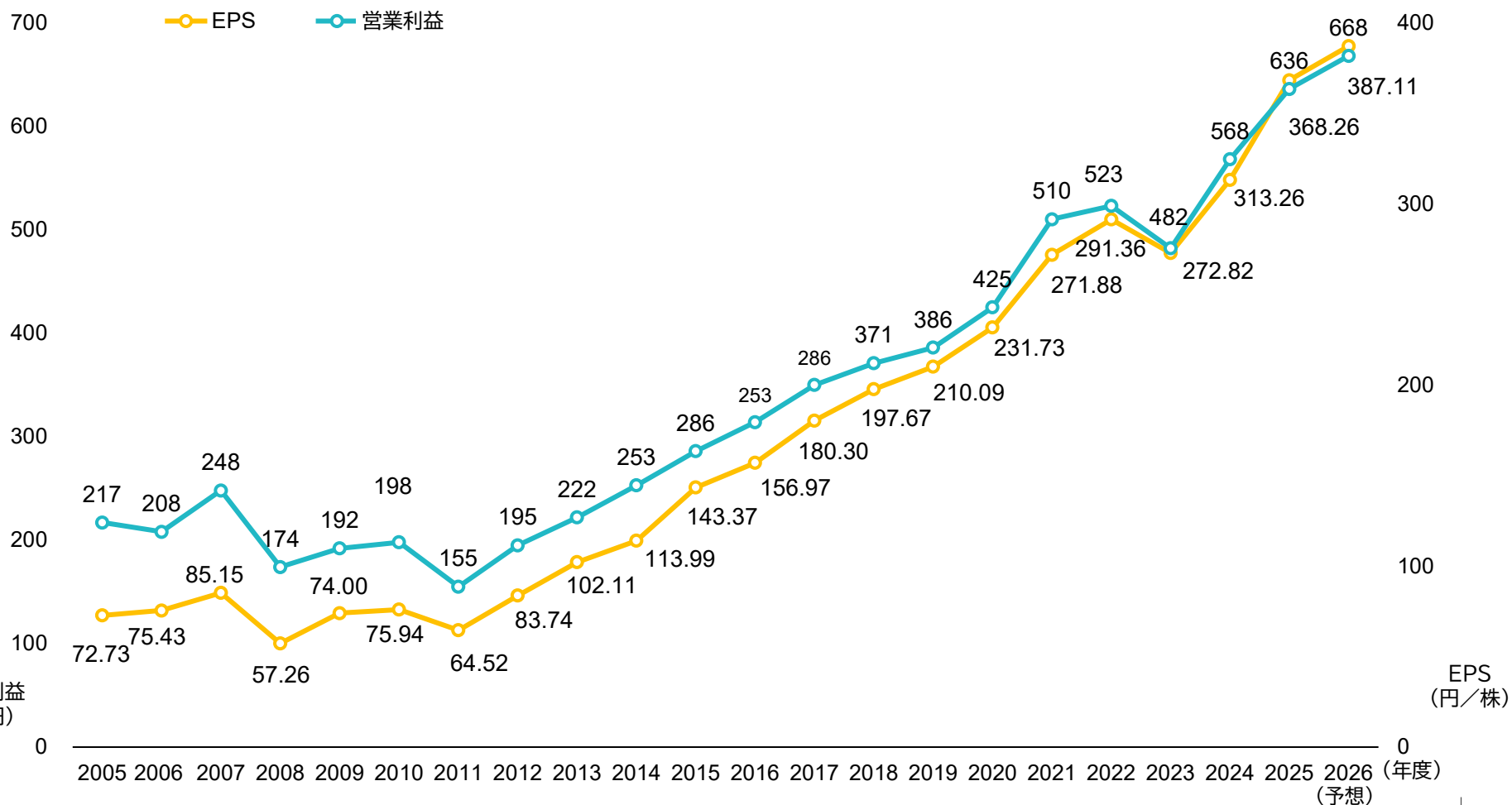
澁澤栄一

高峰譲吉

1. 発行済株式数/資本金：135百万株/18,942百万円（2026年3月現在） 東証プライム市場上場
2. 従業員数：連結3,411人 単体2,107人（2026年3月現在）
3. 主な事業内容：(1)機能性材料事業（ディスプレイ材料、半導体材料、無機コロイド等）
(2)農業化学品事業（農薬、動物用医薬品等）
(3)化学品事業（アンモニア・硫酸系基礎化学品、ファインケミカル等）
(4)ヘルスケア事業（自社創薬、課題解決型受託事業および共同開発型事業）

長期業績推移

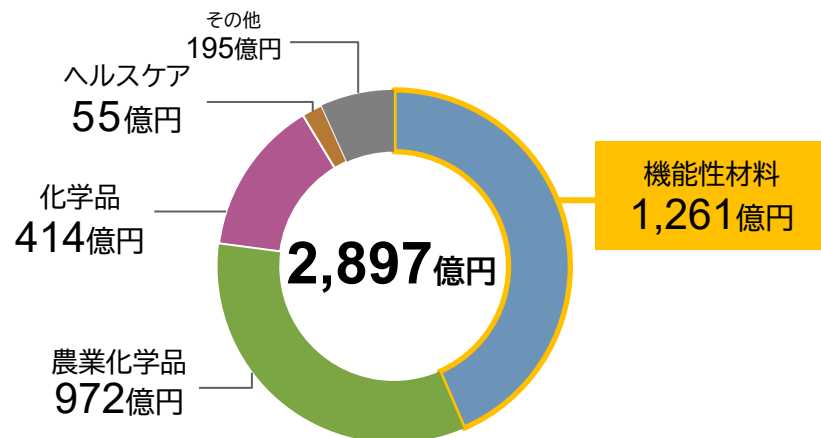
- 2012年度以降、営業利益、EPS(一株当たり当期純利益)は2022年度まで一貫して上昇
- 2023年度は半導体市場の一時的な調整などにより減益となった
- 2025年度および2026年度予想は2年連続で過去最高益を更新する見通し



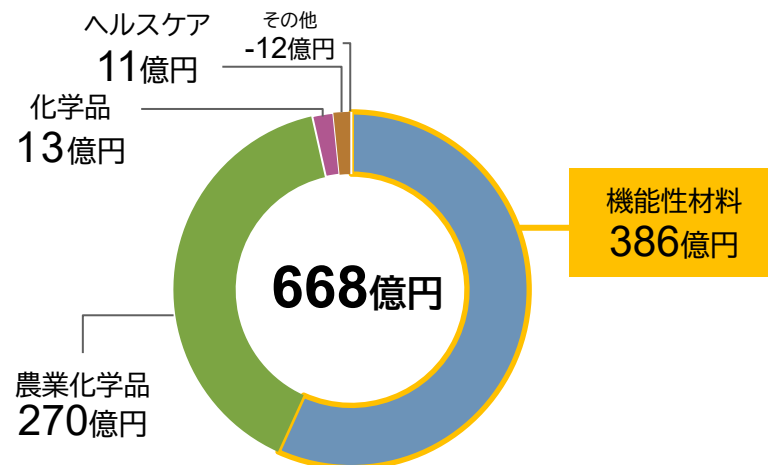
動画を視聴ください

2026年度セグメント別業績予想

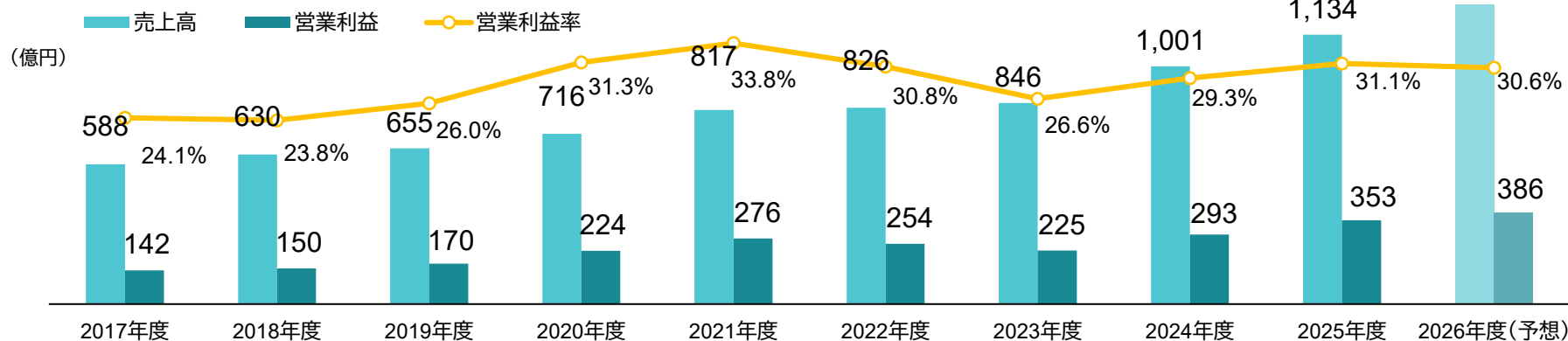
売上高



営業利益



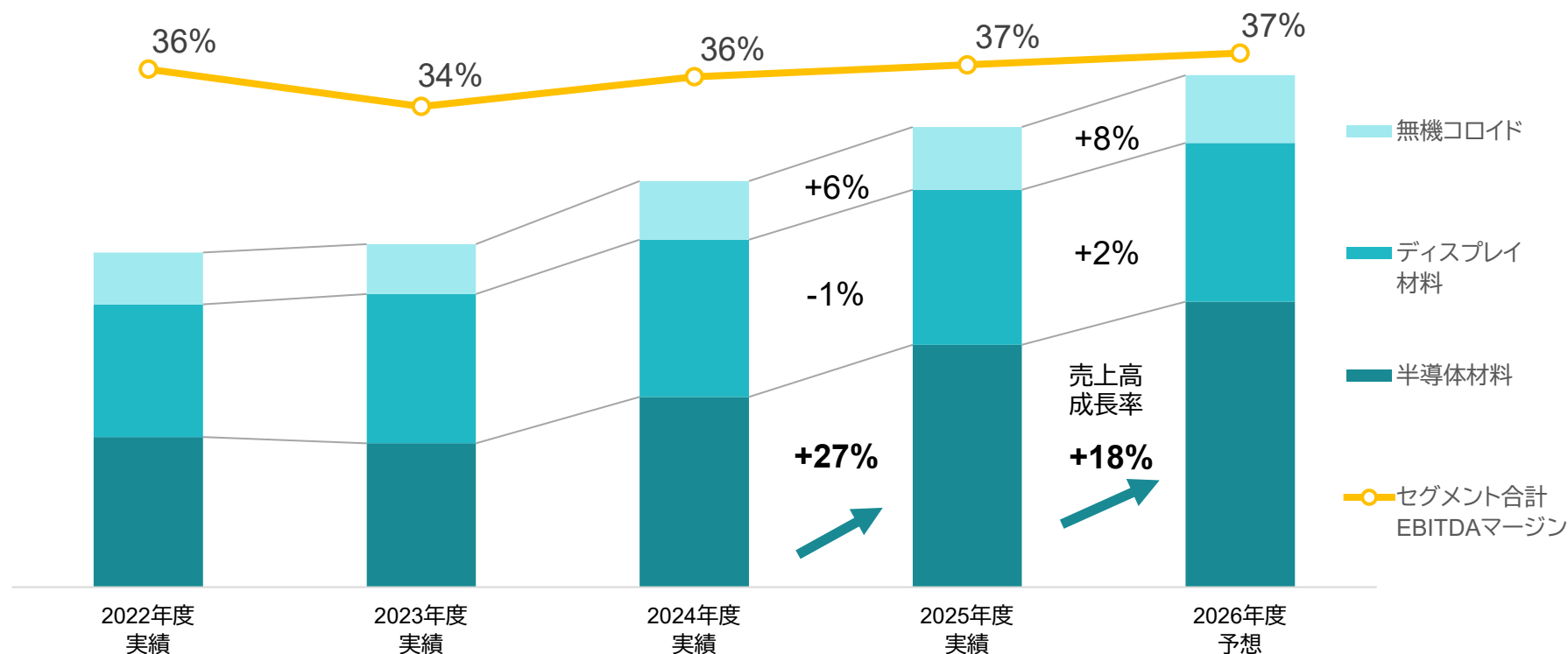
機能性材料セグメント業績推移※1



※1 2025年度より新方式セグメント別営業利益。2024年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み

- 半導体材料は、2023年度は一時的な調整局面にあったが、2024年度以降は、市場回復とアジアにおける強固なポジションを背景に、高い成長率を実現
- ディ스플레이材料は、2022年度を底として回復。キャッシュカウとして安定的な売上高を維持
- サブセグメント売上高構成では、成長ドライバーである半導体材料が、ディスプレイ材料を大きく上回る
- 2026年度は、半導体材料を中心に全てのサブセグメントにて、前年比増収を見込む

機能性材料サブセグメント売上高、セグメント合計 EBITDAマージン*推移

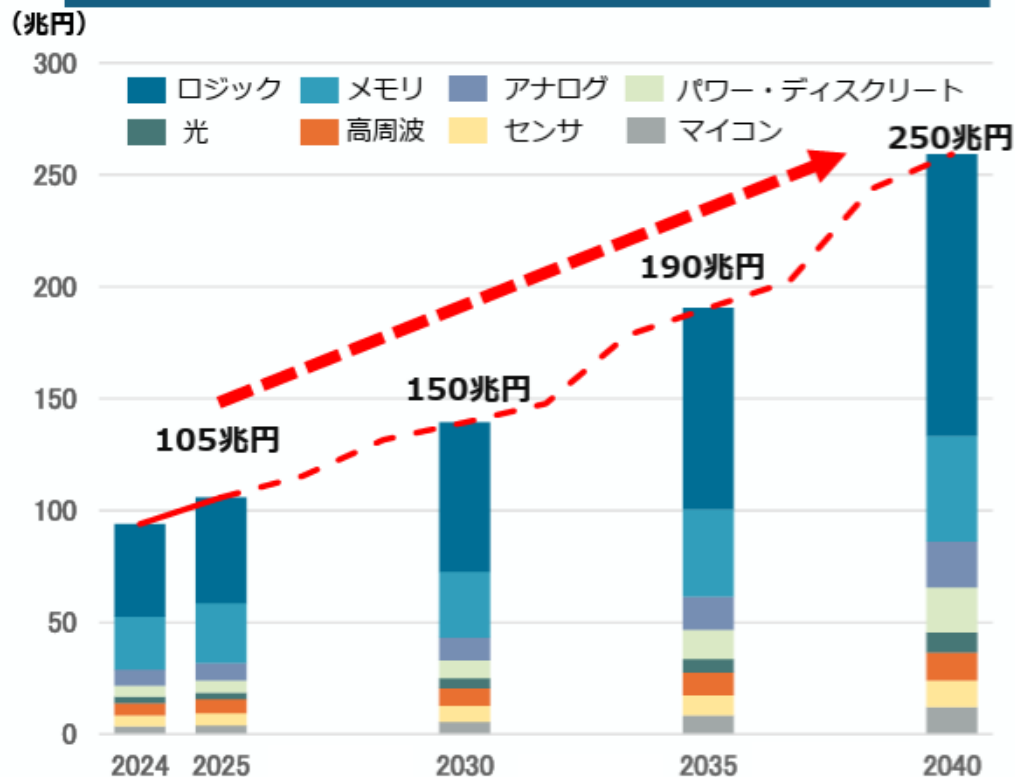


※ EBITDAマージン = (営業利益 + 減価償却費) / 売上高

■ 世界の半導体市場規模

- 近年の強い生成AI需要もあり、市場は高い成長を継続の見通し

半導体市場（生産額ベース）の推移の予測



(出典)経済産業省 2026年3月 半導体・デジタル産業戦略

https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/joho/conference/semicon_digital/0015/handeji15-3r.pdf

反射防止コーティング材
(ARC®)12インチウエハ 塗布装置
材料科学研究所(富山)

製品概要

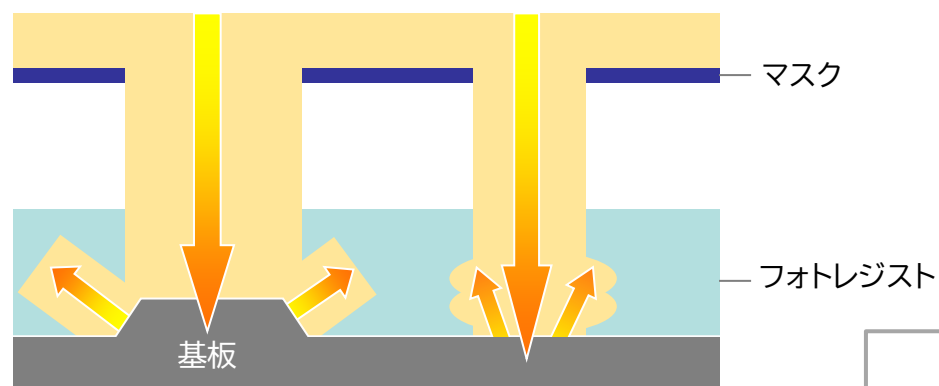
半導体反射防止コーティング材(ARC® : Anti-Reflective Coating for semiconductor)
基板からの反射を抑制することで、所望のレジスト形状を実現

今後の成長戦略

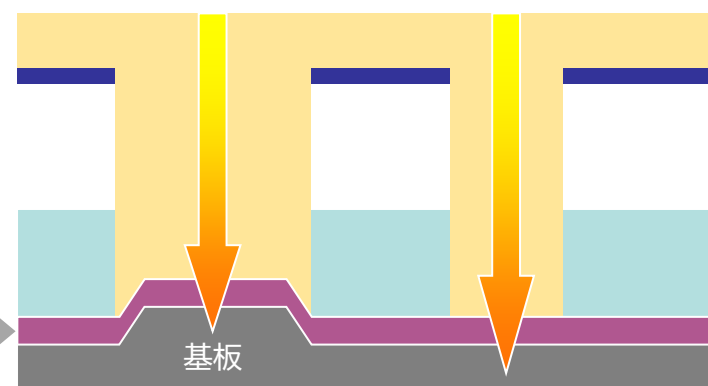
性能・品質の継続改良により、アジアでの高いシェアを堅持。市場の成長と同等の成長を目指す

コーティング不使用

露光



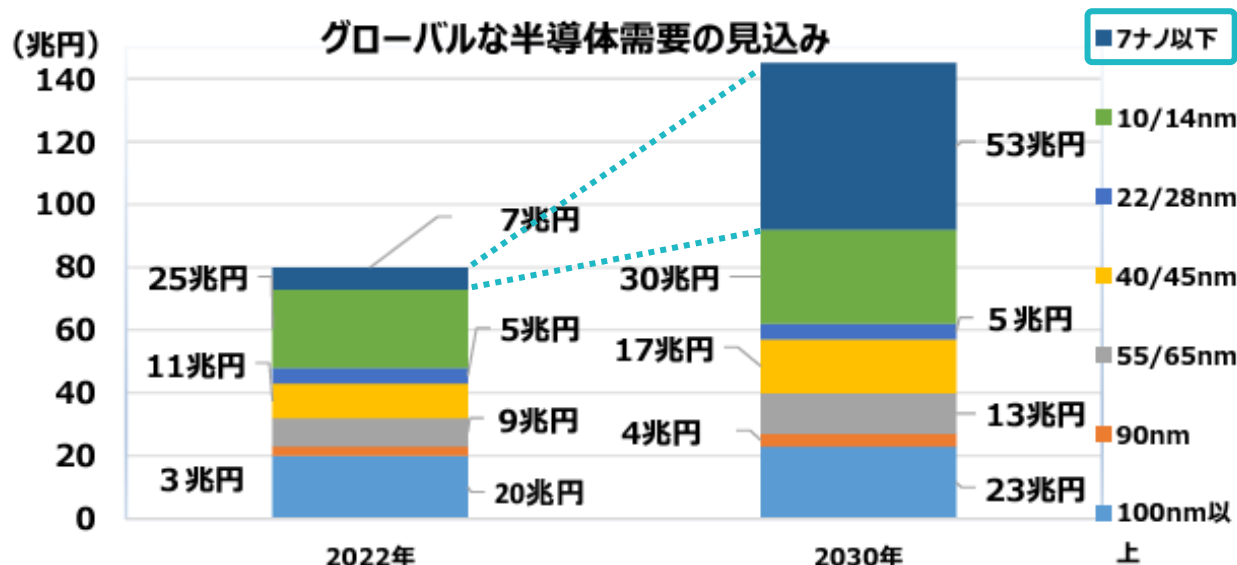
コーティング使用



反射防止コーティング

反射しない

■ 先端半導体市場における需要拡大

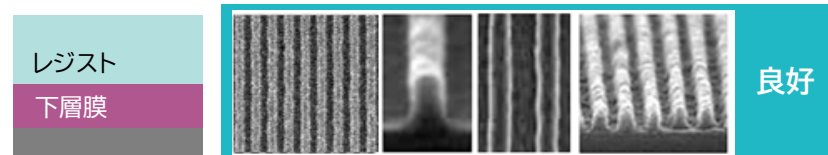
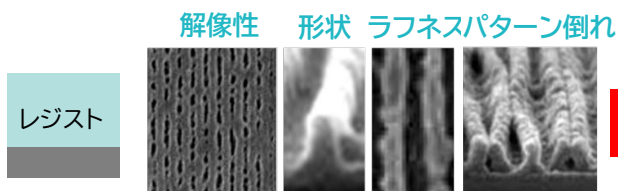


(注) OMDIAや専門家へのヒアリング等を元にしたMcKinsey&Companyによる分析

(出典) 経済産業省 2024年5月 第11回半導体・デジタル産業戦略

https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/joho/conference/semicon_digital/0011/handejisettr.pdf

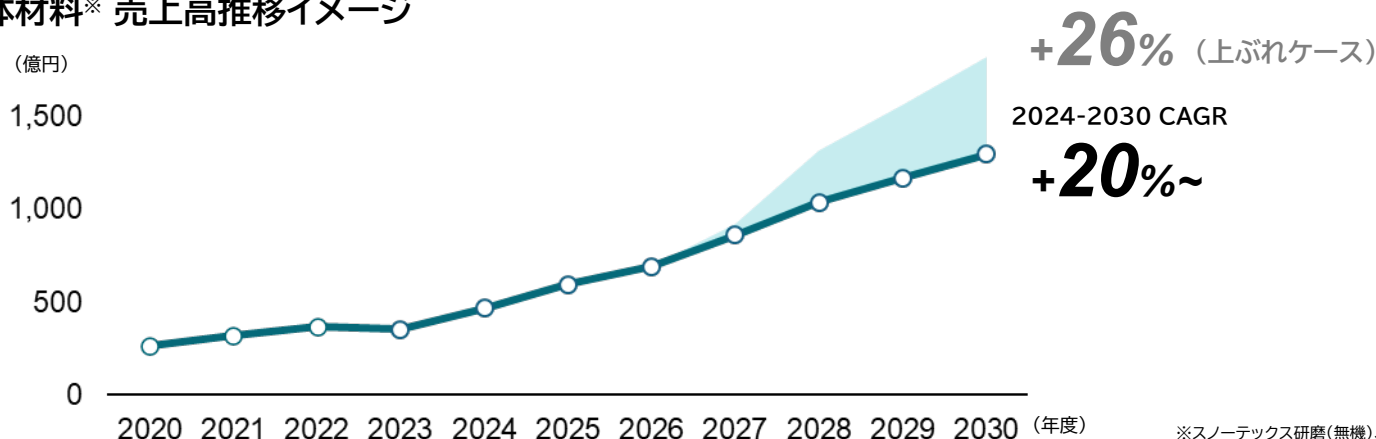
■ EUV材料



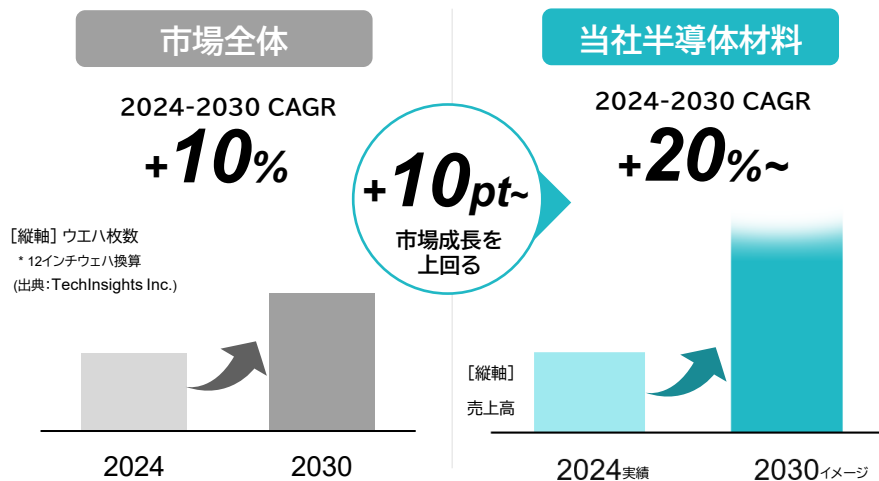
下層膜はEUVリソグラフィーにおける必須材料へ
→ 量産展開中

- 当社半導体材料の売上高成長率は+20%～(2024-2030年CAGR)と、市場成長率+10%を上回る見通し
- AIサーバー向け等の最先端・先端世代において、当社材料は大きく伸長。世代の移行に伴い、材料の使用層数は増加傾向

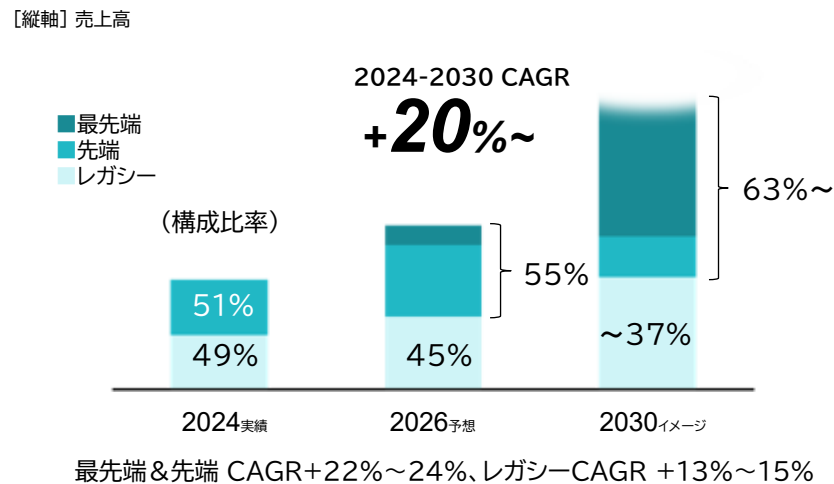
■ 当社半導体材料※ 売上高推移イメージ



■ 市場成長を上回る当社半導体材料の売上成長



■ 当社半導体材料の売上高予想(世代別構成比率)



■ NCK半導体工場

工場所在地	韓国忠清南道唐津市松山2産業団地
事業内容	半導体用材料の製造、販売
商業稼動	2024年度より稼働開始
投資額	90億円(概数)
償却方法	6年定率法(初年度33%を償却)

償却費負担は2024年度がピークで、
2025年度以降は減少していく見通し



製品概要

液晶の配向、コントラスト、解像度、焼き付き等を制御する材料

液晶ディスプレイには必須材料であるが、OLEDディスプレイには使用されない

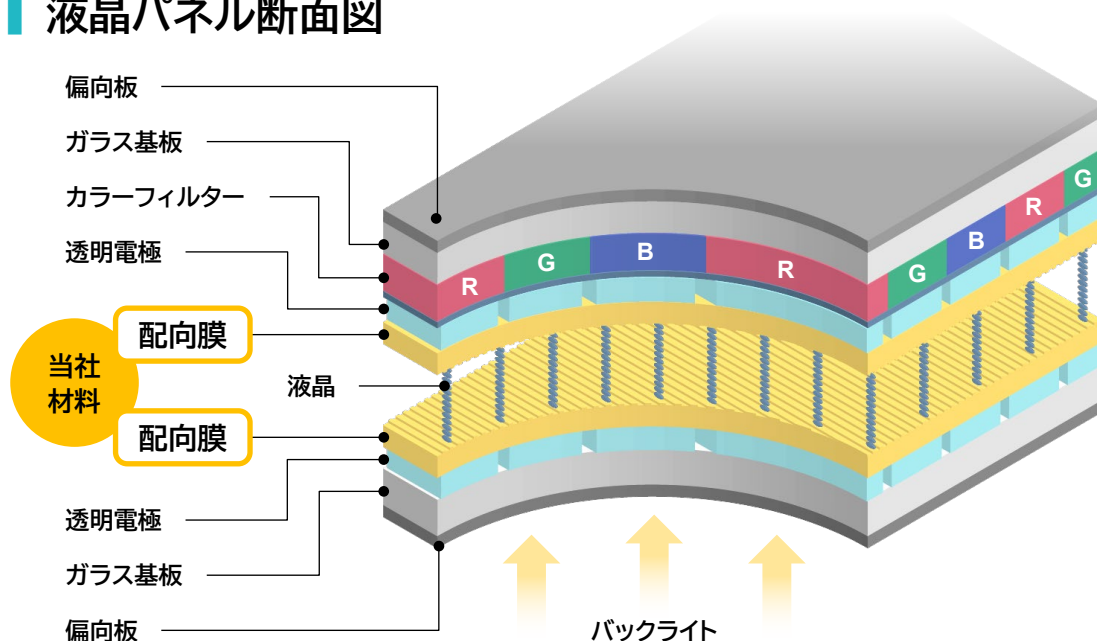
今後の成長戦略

性能・品質の継続改良により、光IPSでの圧倒的なシェアを堅持

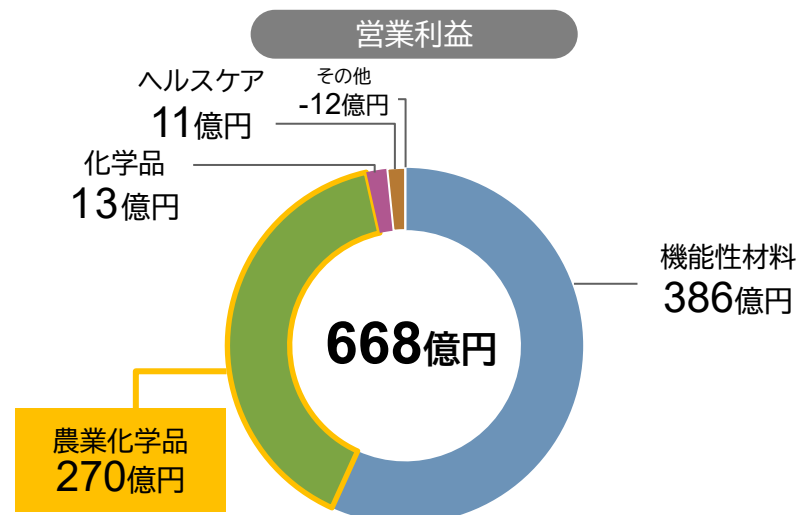
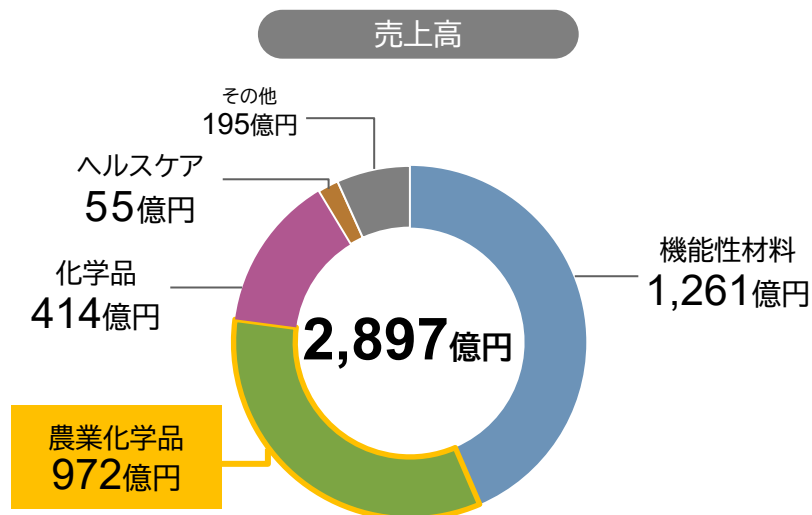
OLEDディスプレイの浸食が少ないモニター、PC、車載向けを中心に堅調な出荷を見込む

本事業の営業利益率は高く、半導体事業の成長を支える

液晶パネル断面図

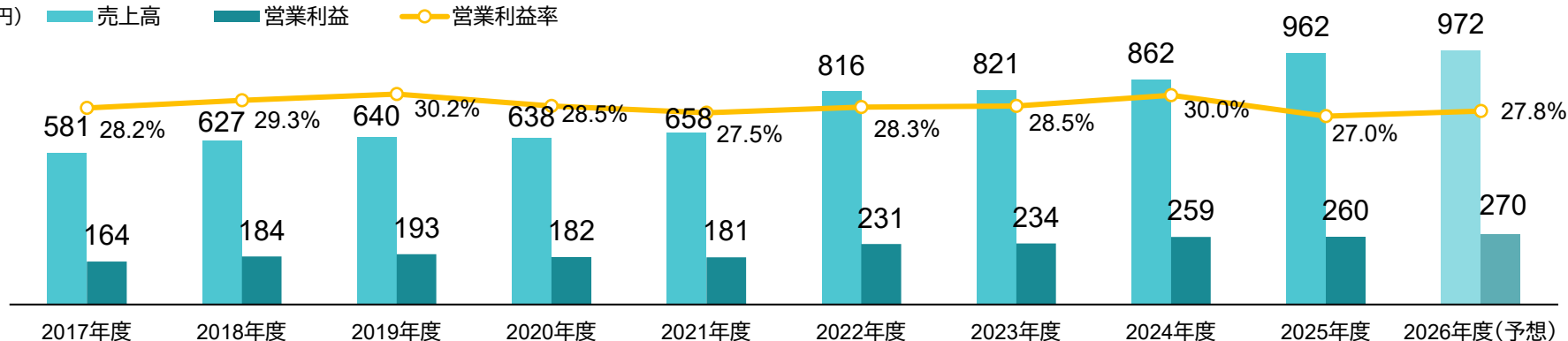


2026年度セグメント別業績予想



農業化学品セグメント業績推移※1

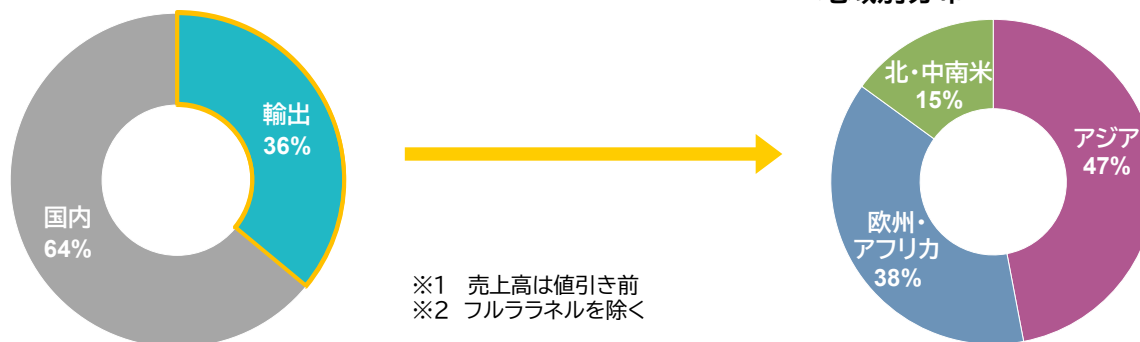
(億円) 売上高 営業利益 営業利益率



※1 2025年度より新方式セグメント別営業利益。2024年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み

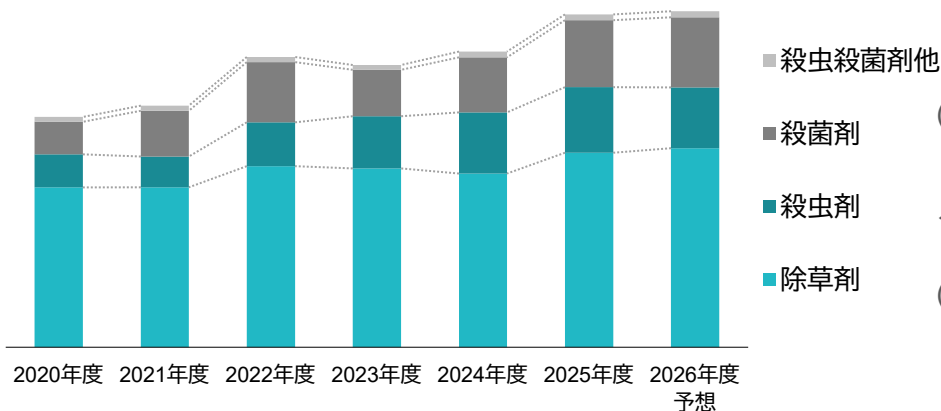
国内農薬販売 第1位(2023年10月～2024年9月)
 農薬売上高(フルララネル除く)は、国内が輸出よりも大きい

■ 農業化学品セグメントの輸出比率(2025年度実績)^{※1・2}

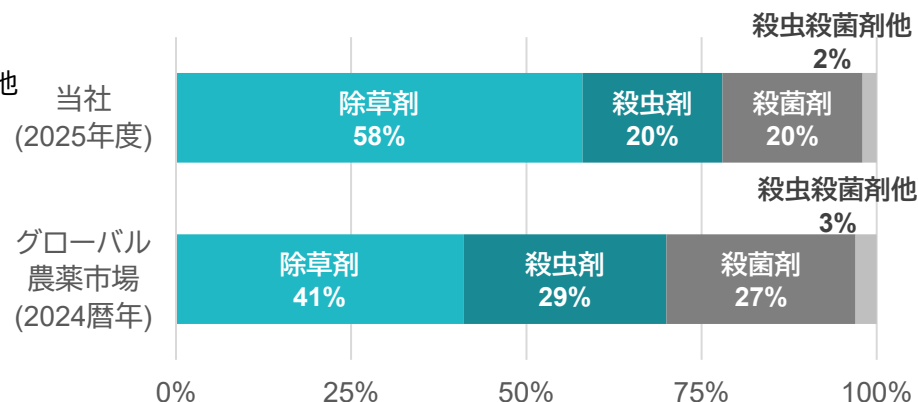


既存剤の拡販、自社開発剤の上市、剤の買収・導入により、製品ポートフォリオの拡充を進める

■ 当社の農薬売上高推移



■ 当社の農薬売上高構成比



■ アルテア

- ホタルイやカヤツリグサ科多年生雑草に卓効を示す
広スペクトラムな水稲用除草剤
- 従来のスルホニルウレア系除草剤に抵抗性を示す雑草にも有効
- 散布時期に応じて、初中期一発剤・中後期剤など
幅広い製品を展開
- 日本、韓国、中国などで販売中
- 国内水稲用除草剤マーケットシェアNo.1



■ ベルダー

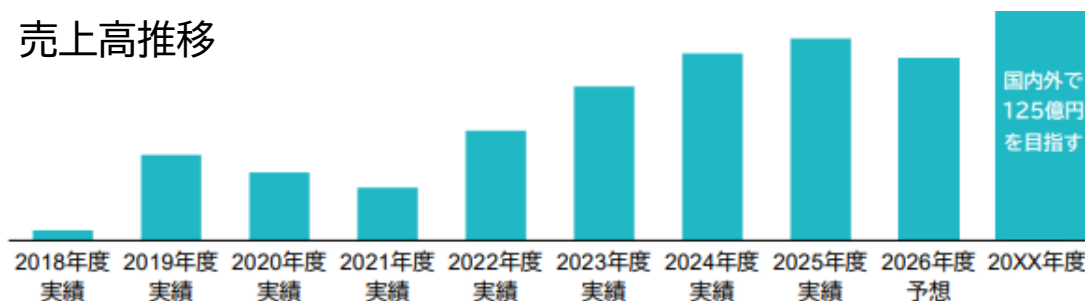
- イネへの優れた安全性があり、抵抗性ホタルイや
難防除雑草クログワイに高い効果を持つ水稲用除草剤
- 2025年2月より日本で販売開始
- 韓国でも開発中
- ピーク時売上高目標60億円



■ グレーシア

- ・ 汎用性殺虫剤
- ・ (乳剤)野菜、茶用 ・ (FL)果樹・ゴルフ場用
- ・ 広範囲の害虫に有効で、既存剤に抵抗性を示す害虫にも効果を発揮
- ・ 有効成分が直接害虫に作用し、速く効く
- ・ ミツバチへの影響が少ない
- ・ 日本、韓国、インドなどで販売中

■ 売上高推移



参考 「農業応援Tube【日産化学】」 公式YouTubeチャンネル

全国の農業生産者や当社の研究所などを訪ね、農作業についての耳より情報や、農業のプロたちの本音を取材した動画を配信。チャンネル登録者数30万人超。



食害される前に駆除できる。



日産化学株式会社



https://www.youtube.com/@nissanchem_agri/videos

- 当社が発明した化合物「フルララネル」を有効成分とするブラベクト®シリーズ・エグゾルト®は現在100か国以上で販売中
- ブラベクト®最大の特徴は12週間にわたる効果持続性(競合製品は1か月程度)
- MAH※¹社とのフルララネルの長期供給契約を延長、新規動物用医薬品創出へ向けた共同研究開発を開始(2025年4月11日ニュースリリース)

1. フルララネル(有効成分)

2. ブラベクト® 外部寄生虫薬 (犬・猫用)

3. ブラベクト® 内外部寄生虫薬 (犬・猫用)

4. エグゾルト® (鶏・牛・羊用)



1. フルララネル(Fluralaner)

- ブラベクト®・エグゾルト®の有効成分。当社がMAH社に供給
- これまでのペット用外部寄生虫薬とは異なる新たな作用機序を有している
- 化合物特許
 - 2025年3月に終了するが、多数の国で延長制度あり
 - UK、ドイツ、フランス等一部欧州諸国では、2029年2月まで延長済み、米国は2027年6月まで延長済み

2. ブラベクト® (BRAVECTO®) 外部寄生虫薬

- MAH社が開発したペット用外部寄生虫薬。犬・猫のノミ、マダニの主要種に対し即効性に優れる
- 通常1か月毎に投薬する既存製品より殺虫効果の持続性が長く、12週間※²にわたって持続する
- 犬向けチュアブルタブレット(経口投与製剤)
 - 2014年4月欧州、以降米国、日本等上市
 - 2020年7月1か月剤(子犬向け)米国上市
- 犬、猫向けスポットオン製品(経皮投与製剤)
 - 2016年7月欧州、以降米国、日本等上市
- 犬向け注射剤 (BRAVECTO® Quantum)
 - 12か月※³の効果持続性
 - 2024年6月豪州、以降欧州等上市
 - 2025年8月米国にて上市
 - 2026年3月日本にて上市

3. ブラベクト® (BRAVECTO®) 内外部寄生虫薬

- BRAVECTO® Plus
 - 猫向けスポットオン合剤
 - 2018年7月欧州、以降米国、日本等上市
- BRAVECTO® TriUNO
 - 犬向けチュアブルタブレット(3種合剤)
 - 1か月の効果持続性
 - 2024年10月欧州、中南米にて承認

4. エグゾルト® (EXZOLT®)

- 鶏向けワクモ駆除剤(飲水投与)
 - 2017年欧州、以降韓国、中東、日本等上市
- 牛向け 2022年ブラジル、以降メキシコ上市
- 羊向け 2023年豪州、NZ上市

■ Nissan Bharat Rasayan Private Limited(NBR)

工場所在地

インドグジャラート(Gujarat)州サイカ(Saykha)に新設
(土地は同州産業開発公社(GIDC)より賃借)

事業内容

当社の農薬(グレース、ライメイ等)原体を製造し、当社へ販売

商業稼働

2022年度4Qより稼働開始

投資額

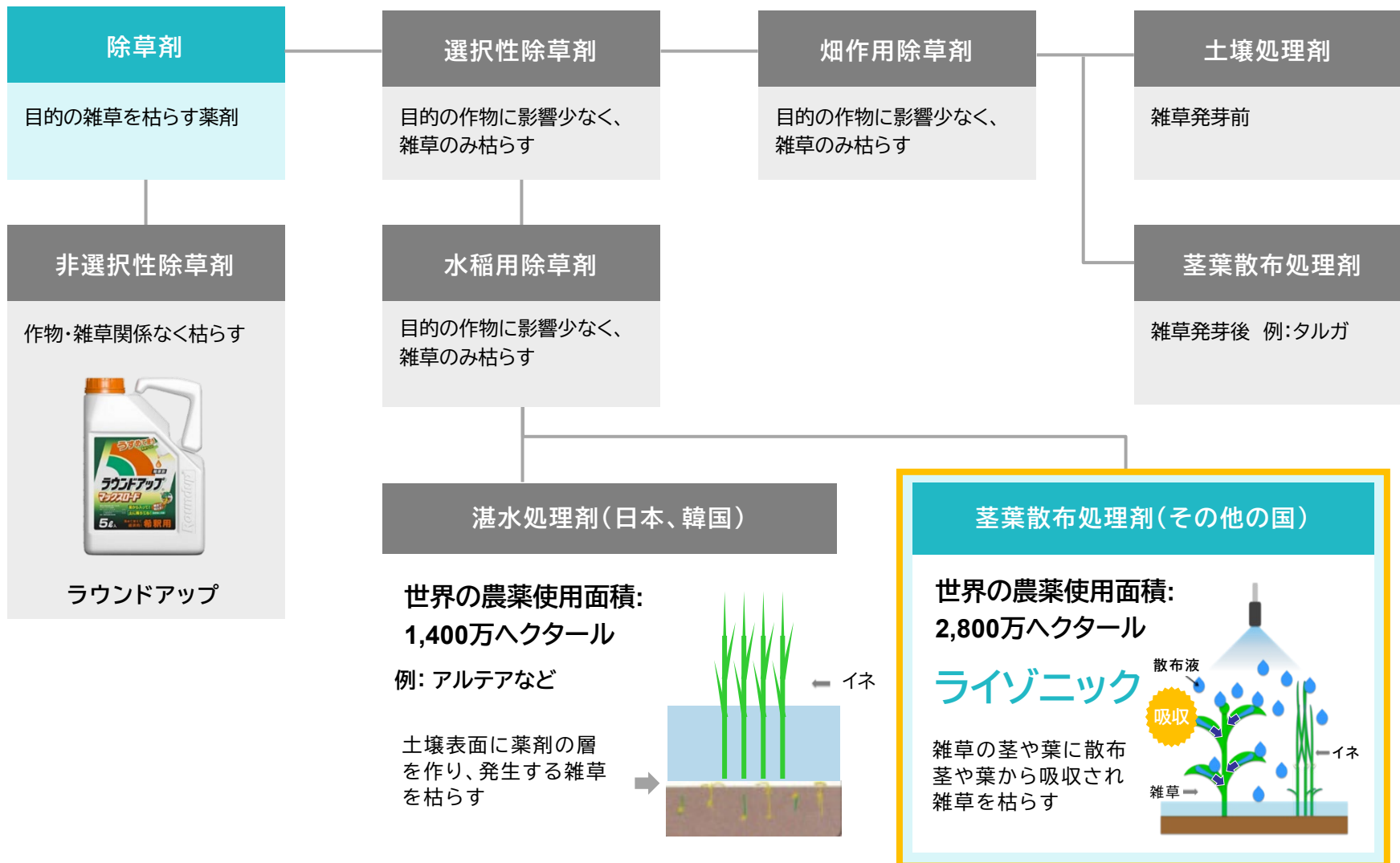
60億円(概数)

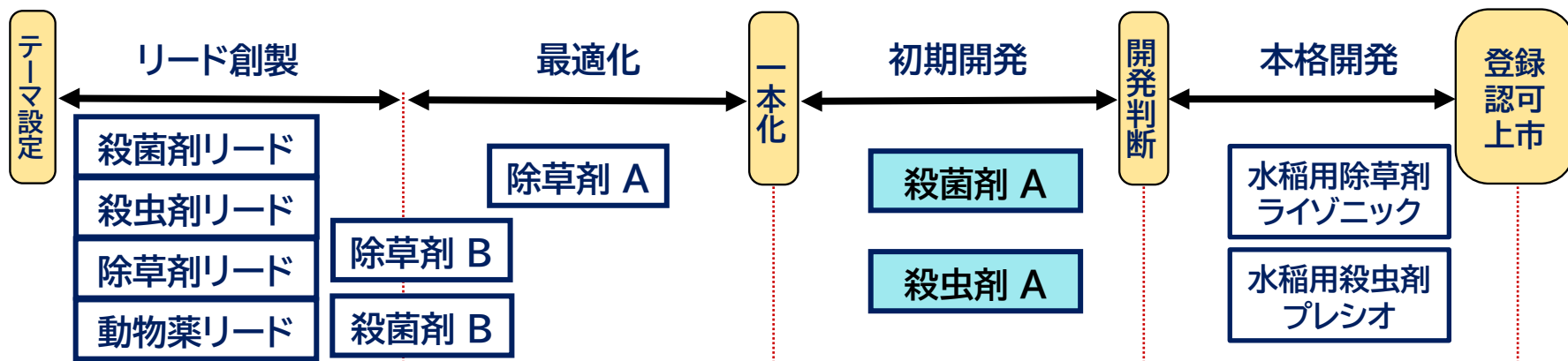
償却方法

10年定額法



- 抵抗性イネ科雑草（ヒエ・アゼガヤ）に優れた効果を持つ、当社初の水稲用茎葉除草剤
- 2027年度上市予定
- ピーク時売上高目標150億円（100億円から上方修正）





殺菌剤A: 市場規模 \$ 3,000Mへ投入

殺虫剤A: 市場規模 \$ 2,000Mへ投入

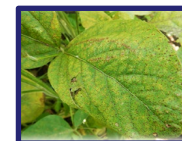
殺菌剤・・・主に糸状菌の感染により引き起こされる病害の防除剤



灰色かび病



イネいもち病



ダイズさび病



うどんこ病

殺虫剤・・・主に昆虫による食害・吸汁害の防除剤



ハスモンヨトウ



アブラムシ



アザミウマ



ハダニ

除草剤・・・雑草の繁茂を防ぐ薬剤



イヌビエ



イヌホタルイ



コナギ

動物薬・・・寄生虫防除剤

リード化合物の質・量の充実
CADD等利用したドラッグデザイン
アウトソーシングを活用し、合成効率化
早期に安全性プロファイリングを実施

1Q

前年同期比

- 売上高は89億円増収(+13%)
- 営業利益は38億円増益(+21%)
- 純利益は29億円増益(+21%)
- 売上高、営業利益、純利益は過去最高を更新

1Q

業績予想比

(2026年5月発表予想との比較)

- 売上高は97億円上ぶれ
- 営業利益は51億円上ぶれ
- 純利益は30億円上ぶれ

2026年度 業績予想

- 上期および通期の業績予想は、2026年5月発表より修正なし
(各セグメントの業績予想も同様に修正なし)

株主還元

- 自己株式取得
2026年5月～2027年3月に105億円取得予定
(2026年5月発表済み)

還元も成長も実現

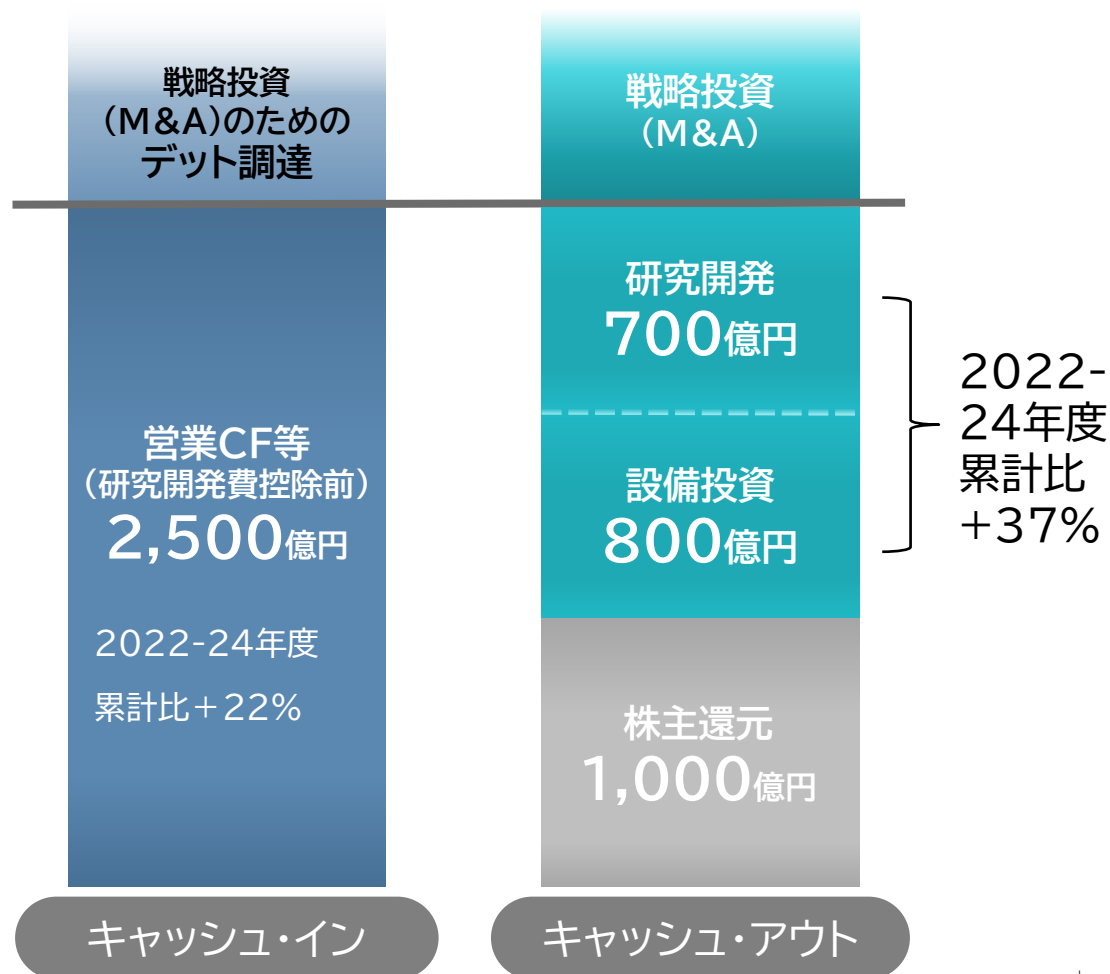
卓越した業績 (2025年度)

営業利益率	22.7%
ROA	14.6%
ROE	20.3%

株主還元 (2025年度)

総還元性向	75.7% (27年度までの 目標75%)
配当性向	54.9%(55%)
2006年度からの 取得総額	1,455億円 (発行済株式の 28%以上取得)

キャピタルアロケーション (2025-27年度累計)



- 2027年の企業像実現のため、当社が取り組むべきマテリアリティ(重要課題)を特定
- 取組みを推進することで社会とともに持続的な成長を目指す

▶▶▶1

人びとの暮らしに役立つ
新たな価値の提供

▶ 日産化学サステナブル
アジェンダ※1

社会課題解決に貢献する製品・
サービスの全売上に占める割合
60%以上

(55%以上維持より上方修正)

※1 社会課題解決に貢献する製品・サービスの提供により、
「地球と人の未来のためにできること」を追求する計画

▶▶▶2

自社事業基盤の強化

▶ 人材の確保・育成
人材育成に関する社員意識調査
肯定回答率
65%以上

▶ ダイバーシティ推進
研究所女性総合職比率 **18%以上**

▶▶▶3

レスポンシブル・ケア活動の
継続的強化

▶ GHG排出削減目標
2018年度比 **30%以上削減**

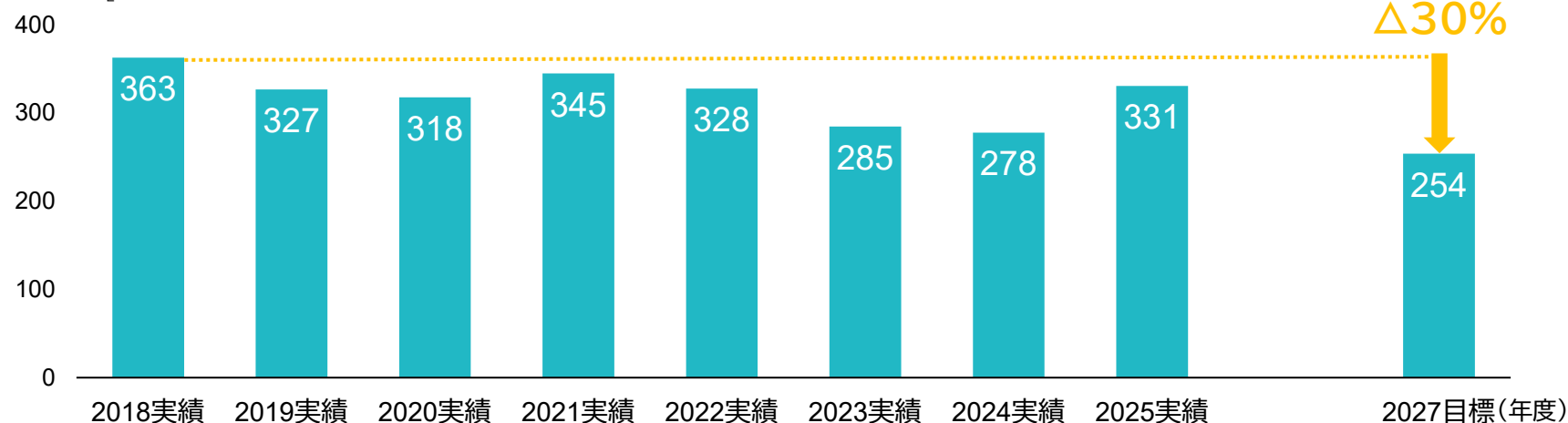
当社グループの最重要課題

コーポレート・ガバナンス、リスクマネジメント、コンプライアンスの強化

- 2050年のカーボンニュートラル実現に向け、従来の取り組みに加え、生産技術の改善や再生エネルギー導入などに注力する
- 2027年度目標(SCOPE1+2,単体ベースで2018年度比30%以上削減)は達成を見込む。
2025年度は、1Qに発生した硝酸プラントトラブル影響によりGHG排出量が一時的に増加

■ 当社のGHG排出量削減目標(SCOPE1+2、単体ベース)

(千トン-CO₂e)



■ 他社とのGHG排出量の比較(連結ベース)

(千トン-CO₂e)

年度	2019	2020	2021	2022	2023	2024
日産化学	346	337	364	346	305	315
大手総合化学4社平均	9,275	8,928	9,226	8,390	7,803	7,691

中期経営計画 Vista2027 (2022-2027年度)における取り組み

- 硝酸プラントからのN₂O排出ゼロ
(予定投資額 830百万円 変動費 70百万円/年)
- メラミン製造中止
- 小野田工場燃料転換
- ICP本格導入によるGHG排出削減推進
- フロン機器の削減
- 省エネ機器への更新

E
(環境)

S
(社会)

2021年4月	ダイバーシティステートメントおよびダイバーシティビジョンを設定
2022年5月	2050年にカーボンニュートラルへ 温室効果ガス(GHG)排出削減長期目標を設定
2022年6月	メラミン停止によるGHG削減(26千トン、2018年度実績の約7%に相当)
2022年6月	気候変動対策委員会設置
2025年9月	「 統合レポート2025 」を発行
2025年9月	環境省「自然共生サイト」認定(日産バイオパーク西本郷(富山工場)、小野田工場バイオトープ)

G
(ガバナンス)

2019年4月	指名・報酬諮問委員会設置(取締役会の任意の諮問機関)
2019年6月	取締役等を対象に業績連動型株式報酬制度導入(株式給付信託)
2026年4月	役員報酬体系の一部改定(株式報酬比率の引き上げ) 変更前:基本報酬65%、業績報酬28%、株式報酬7% 変更後:基本報酬50%、業績報酬30%、株式報酬20%(ROE指標及びTSR指標に連動) ※業績報酬の連動割合(利益連動部分90%、ESG連動部分10%)に変更なし
2026年6月	「 コーポレートガバナンス報告書 」を更新
2026年6月	女性取締役(社外)2名選任(再任)(取締役は計10名、うち社外4名) 女性監査役(社外)2名選任(1名再任、1名新任)(監査役は計4名、うち社外3名)

Dow Jones Best-in-Class Asia Pacific Index

■ 2026年4月 構成銘柄に選定

※旧 Dow Jones Sustainability Asia Pacific Indexからの継続を含め、8年連続選定

FTSE

- 2026年6月 FTSE4Good Index Series、FTSE Blossom Japan Indexの構成銘柄に7年連続選定
- 2026年6月 FTSE Blossom Japan Sector Relative Indexの構成銘柄に5年連続選定

※FTSE Russell (FTSE International Limited と Frank Russell Companyの登録商標)はここに日産化学株式会社が第三者調査の結果、FTSE Blossom Japan Sector Relative Index組み入れの要件を満たし、本インデックスの構成銘柄となったことを証します。FTSE Blossom Japan Sector Relative Indexはサステナブル投資のファンドや他の金融商品の作成・評価に広く利用されます。



FTSE4Good



FTSE Blossom Japan



FTSE Blossom Japan Sector Relative Index

健康経営優良法人 -ホワイト500-

■ 2026年3月 10年連続認定



外部イニシアティブへの参画


 TASK FORCE ON
CLIMATE-RELATED
FINANCIAL
DISCLOSURES

 Taskforce on Nature-related
Financial Disclosures


S&P/JPX カーボン・エフィシエント指数

- 2025年6月
構成銘柄に7年連続選定



MSCI

- 2025年5月 MSCI ESG格付け AからAAへ格上げ
- 2025年6月 MSCI日本株ESGセレクト・リーダーズ指数
構成銘柄に2年連続選定

※MSCI指数への日産化学株式会社の組み入れ、および本ページにおけるMSCIロゴ、商標、サービスマーク、または指数名称の使用は、MSCIまたはその関係会社による日産化学株式会社の後援、保証、または販売促進ではありません。MSCI指数は、MSCIの独占的財産です。MSCIおよびMSCI指数の名称とロゴは、MSCIまたはその関係会社の商標またはサービスマークです。

2025 CONSTITUENT MSCI日本株
ESGセレクト・リーダーズ指数

Morningstar

- 2025年12月 構成銘柄に選定
Japan ex-REIT Gender Diversity Tilt Index
構成銘柄に3年連続選定

CDP

- 2026年1月
水セキュリティにおいてAリストに選定



「子育てサポート企業」くるみん

- 2023年1月 2回連続認定



証券アナリスト協会「2025年度ディスクロージャー優良企業」

- 化学・繊維部門 第2位(2022年度第2位、2023年度第2位、2024年度第2位)

日本IR協議会「IR優良企業賞」2025年(第30回)

- 日本IR協議会会員企業のうち応募企業371社の中から、日本IR協議会がIRの趣旨を深く理解し、積極的に取り組み、市場関係者の高い支持を得るなど、優れた成果を挙げた企業を選び、表彰。

IR／サステナビリティホームページ

- | | |
|--|----------------|
| ■ 日興IR「2025年度ホームページ充実度ランキング」 | 最優秀サイト受賞(8年連続) |
| ■ 大和IR「2025年インターネットIR表彰」 | 優秀賞受賞(3年連続) |
| 同サステナビリティ部門 | 優秀賞受賞(5年連続) |
| ■ ブロードバンドセキュリティ「Gomez IRサイトランキング2025」 | 銀賞受賞(6回目) |
| ■ ブロードバンドセキュリティ「Gomez ESGサイトランキング2025」 | 優秀企業受賞(6年連続) |

http://www.nissanchem.co.jp/ir_info/index.html



The screenshot shows the Nissan Chemical IR Information website. At the top, there is a header with the company name "日産化学株式会社" and navigation links: "会社情報", "事業・製品", "研究開発", "IR情報", "サステナビリティ", and "採用情報". Below the header, there is a large blue banner with the text "IR情報" and "投資家の皆様へ もっと日産化学を知っていただくために". Underneath the banner, there is a section titled "IR新着情報" with a list of recent updates. A yellow arrow points to the "IRメール配信のご登録" button in the bottom right corner of the screenshot.

日産化学株式会社

印刷する 文字サイズ: あ ああ

会社情報 事業・製品 研究開発 IR情報 サステナビリティ 採用情報

IR情報
投資家の皆様へ
もっと日産化学を知っていただくために

ホーム > IR情報

IR新着情報 ▶ 新着情報一覧

- 2025年08月08日 [2026年3月期 第1四半期 決算短信](#) (404.3KB)
- 2025年08月08日 [2026年3月期 第1四半期 決算説明資料](#) (1.4MB)
- 2025年08月04日 [自己株式の取得状況に関するお知らせ](#) (111KB)
- 2025年07月02日 [自己株式の取得状況に関するお知らせ](#) (111KB)
- 2025年06月16日 [R&D説明会資料](#) (3.7MB)

株主・投資家の皆様へ 中期経営計画 (経営戦略) IRメール配信のご登録

経営方針 日産化学について

- ・IR新着情報
 - ・個人投資家の皆様へ
 - ・経営方針
 - ・業績・財務
 - ・株式情報
 - ・IRカレンダー
 - ・株価情報
 - ・最新資料ダウンロード
- などを掲載しています

IRに関する最新情報について、
メールでお知らせします。
ぜひご登録ください。

<https://www.nissanchem.co.jp/mail/index.html>

本資料に記載されている将来の当社事業に関する見通しは、資料作成時点で入手可能な情報に基づいて当社が判断したものであり、将来の当社業績を保証するものではありません。様々な不確実要素により、実際の業績は予測と大きく異なる結果になる可能性があります。

また、本資料は投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身のご判断で行われるようお願いいたします。

本決算説明資料に掲載されている全てのコンテンツは、日産化学株式会社が所有しています。
